

911.3
1
下

空
法
云
1



阿、花、三、三

与、何、所

~~阿、花、三、三~~

法門の、曲、其、意、の、難、を、以、て、以、て、
の、難、を、以、て、以、て、以、て、以、て、
法、門、の、難、を、以、て、以、て、以、て、以、て、
一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
法、門、の、難、を、以、て、以、て、以、て、以、て、

法、門、の、難、を、以、て、以、て、以、て、以、て、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

強き神をわくし衆をひりり 面徑

あつすくぬよ 正月のほ 正堂

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

あつすいあゆふあひまふか 女房

わんをまの給も匠家の自心 丁

おんやまの強くねし 丁

終のなき流ま 丁

一ちのわらまよ 丁

かゝりて コウツク 丁

まの コウツク 丁

名録

三 一 丁

二 一 丁

一 一 丁

一 一 丁

一 一 丁

一 一 丁

一 一 丁

一 一 丁

花のくち掃き二月の庭有り 梅也
さき月へののきふもあつあね 里を
あまふり掃きよく庭はけ 山家
ゆきやふのしれきふらさ 雪
華へさつらんかき 花の
あしつともはけは目を踊ら 干板
水もまのたつらんかき 鬼涼
花さつらんかき 明和

あまふり掃きよく庭はけ 和
ゆきやふのしれきふらさ 山家
華へさつらんかき 花の
あしつともはけは目を踊ら 干板
水もまのたつらんかき 鬼涼
花さつらんかき 明和

久禮

三月十七日 段足亭 久禮

夢の心持とて中心

やうらうらとて心持とて心持

後方力

吳甫

後方の心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

六

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

心持とて心持とて心持

二
東のていせんとおの海にこれ
編みこころに柳のこころを
又のうしろのちのまやくくく
そよよのこころをうしろに
うしろのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに

傾いしこころの月を影にや
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに
おのこころをうしろに

比...の...
伸...
志...人...
...
...

下田浦

...
...
...
...
...

...
...
...

...

左段

...

...

...

...

...

梅の香をきく金ふく
竹也

よりあつて子かしら
葉斗

舞とまわして計
つゆ

お八千
つゆ

梅のあつた
竹葉

酔いそふ
始

返して中
反字

今世
ふ

二

新りの白の原
及

遊いよるは
五

飛了
自

山嶽の
也

可
亦

と
時

言
斗

言
斗

カ

この類とすうの類
字 洞

代わりのまた帯の類
字 柳

名録

ゆき梅やうきさうりちあめさ
玉真

うきさやうきさうりちあめさ
其洞

うきさやうきさうりちあめさ
仙居

梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

かきん梅やうきさうりちあめさ
其洞

加

難 晴しや雨やふかしのまゝ
さうり林やしらべのまゝ
夢 秋や おらふし 遠きくさる
里の

中村

身に何層津友のおまをり
まのうしとまをり
冬ふくれは
まをり

しるす秋やまの陽のしるす

軽 舟り

まの舟のまやま折し
己白

月おぬしのまをり
舟り

下 冷く 菊まのまをり
舟り

舟り
舟り

コシハコ
女入石もくしりせいころぬ交孤也 コウチ 子混

リささくさく 年一 説法 其事

意のまに 段らゝあうましあ入らね 已登

雨の降るゝつりやれ 此景

ふりても 海もあふら 深方手れ 船雲

ふ金に世もあふれ 船てや 空舟

雲のまはり くる人 一 枕

ささくさく 夢のまはり 空舟

新地も 長 浪 舟 長 梧子 雨 松

とくしり 船と 汗の 体 舟 知 康

ふかり 舟もあふら 舟 一 段

年一 舟もあふら 舟 一 段

何新とも 舟もあふら 舟 一 段

舟もあふら 舟もあふら 舟 一 段

舟もあふら 舟もあふら 舟 一 段

舟もあふら 舟もあふら 舟 一 段

さくさくしるは後にもあはれ者の氣に 終一

汁の極や入るに 此の汁 己ふ

志やうしうららおししうららに 此は

たふあさつんあら次はのち中 此を

名録

粥も又葉く 此はやはの月 此は

くさや大所か 此は氣は此 此を

ゆりしるはかおや 此はりの茶 此を

りらあや極よ船しうら 此は此 此を

ふあひ月やすもふふよてはとら 此を

ゆりしるはかおや 此はりの茶 此を

けしこやりあしはふ 此は子ら 此を

ゆりの極や 此はてら 此を

ふあひ月やすもふふよてはとら 此を

ゆりしるはかおや 此はりの茶 此を

ゆりしるはかおや 此はりの茶 此を

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

追加

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

中村の連中

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

まはるや 藤と 連なり 子 已 衆
まはるや 九條と 子の 因なりと 一 批

掛きくしめれくそくあやめ

テイセウ

あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ

あやめくしめれくそくあやめ

あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ

あやめくしめれくそくあやめ

あやめくしめれくそくあやめ

堂陽

あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ
あやめくしめれくそくあやめ

あつたはるのうらなひ
あつたはるのうらなひ

あつたはるのうらなひ

あつたはる

あつたはるのうらなひ

あつたはる

あつたはるのうらなひ

浮

中

あつたはるのうらなひ
あつたはるのうらなひ
あつたはるのうらなひ

あつたはるのうらなひ

あつたはる

くねーいふこもさきさきうたのね

高地

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

高地

くねーいふこもさきさきうたのね

松山

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

高地

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

くねーいふこもさきさきうたのね

とらふたふぢめいしうきしり
ふ東

らふてふきまらりとゆ俊
ふく

夕さらけ露とゆふふのち也
下流

ゆひえりゆふのちゆく
左川

杜律ゆふきしゆ詩と並られ
若牛

小傳ゆふきしゆ折ゆ
中橋

あふゆふのちふたむと遠りれと
野髪

ふくしゆきしゆ苗しゆゆ
若

海字のふきしゆ、経の授ふ
若也

ゆふきしゆのちはらふしゆ
若也

まゆふしゆのちしゆ
至東

らふてふきまらりとゆ俊
至東

深川のゆふのちしゆ
若也

試ゆふのちゆふしゆ
若也

ゆふきしゆのちゆふしゆ
若也

ゆふきしゆのちゆふしゆ
若也

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監
きふよよ 想ふよよ かのよよ 監

折し 馬 野子 なる かの けし なる かね
よ 力 の 程 あり なる かの けし なる かね
一 筋 の なる けし なる かね

松 柳 の なる けし なる かね

萩 亭 の なる けし なる かね

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

あゝあゝ

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

あゝあゝ

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

あゝあゝ 筆に 五平、 存の 解 監

山移し一草のこゝろ等連ん 草

折や一草一花の目七草 草

包しや一草一花の目七草 白

こたに草のしり 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

あはれあはれ 草

あはれあはれ 草

二

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

かきこひつれと 草

少
縦の横も志のくも 昭名くこ
唯中くは 終ふあれ 如月
陽上 汝をまらと 口つあしこ かり
くくく 宗 徳と 世 宗 徳と
くく 中 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
終り ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
宗 徳と 世 宗 徳と

石塚

健くくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくく
ほのくくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

風子

お山よりなる民のあまのこころは
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ

あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ

あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ
あまのこころのあまのこころのあまのこころ

一、年々もたれし強、やうしん
 二、あつらひのまゝに言ふ所の強
 三、あつらひのまゝに言ふ所の強
 四、あつらひのまゝに言ふ所の強
 五、あつらひのまゝに言ふ所の強
 六、あつらひのまゝに言ふ所の強
 七、あつらひのまゝに言ふ所の強
 八、あつらひのまゝに言ふ所の強
 九、あつらひのまゝに言ふ所の強
 十、あつらひのまゝに言ふ所の強

一、あつらひのまゝに言ふ所の強
 二、あつらひのまゝに言ふ所の強
 三、あつらひのまゝに言ふ所の強
 四、あつらひのまゝに言ふ所の強
 五、あつらひのまゝに言ふ所の強
 六、あつらひのまゝに言ふ所の強
 七、あつらひのまゝに言ふ所の強
 八、あつらひのまゝに言ふ所の強
 九、あつらひのまゝに言ふ所の強
 十、あつらひのまゝに言ふ所の強

楊を舞ひ 百色亭の舞

楊を舞ひ 百色亭の舞

楊を舞ひ 百色亭の舞

楊を舞ひ 百色亭の舞

よあつみのそくあつたまふ
百拾やう、あつたまふ
備の極めさつたまふ
うさあおや、うさあおや
九つあつたまふ
巴を

讀改

うさあおや、うさあおや

かきつたまふ、うさあおや

坂ノ山

信所、うさあおや

うさあおや

光明は刺さる

あはれいふるまよひしとすの道 抄

きりかへしとすまよひしとすの道 静

ふりかへしとすまよひしとすの道 平

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

あはれいふるまよひしとすの道 静

子之也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

楷 法

一 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

二 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

三 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

四 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

五 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

六 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

七 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

八 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

九 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

十 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

十一 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

十二 凡 用 筆 須 知 筆 法 之 妙 在 於 心 手 之 相 應 也

あつちのりてやむとさき
東のまはれと祖伝のやうに
職の教やりの教
このついでに又美徳教
上より中へ
娘と^か子
しるし

おまのは連のり
漸と半信のり
わが
以て
者

名録

五止と

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま
大工 戸 戸 戸

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま
戸 戸 戸 戸

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま
戸 戸 戸 戸

うらやまふさふさのうらやまふさふさのうらやま

海へ出づ

なほなほと

杖、質

推し、強ひてく、松葉、松葉、松葉

か、海へ出づる人の、海へ出づる

送る

なほなほと、海へ出づる人の、海へ出づる

の、松葉、松葉、松葉、松葉

は、海へ出づる人の、海へ出づる

なほなほと、海へ出づる人の、海へ出づる

なほなほと、海へ出づる人の、海へ出づる

ゆゑ

自、海へ出づる人の、海へ出づる

海へ出づる

なほなほと、海へ出づる人の、海へ出づる

海へ出づる

なほなほと、海へ出づる人の、海へ出づる

海へ出づる

抄

云庫

後房の主人まゝしやあかき持て
つとむやまのまゝしやあかき持て
しやあかき持てしやあかき持て
あかき持てしやあかき持て
あかき持てしやあかき持て
あかき持てしやあかき持て

そのまゝしやあかき持て

云庫

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

あかき持てしやあかき持て

しんじつ... 山

折... 大

悟... 山

... 山

夕... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

... 山

各録

梅くやほねくくし何れも
 鳴りもしたまふ座の目撃し
 志如梅のほり御してはまじし
 こそまじりか
 梅の段やふわりれお座のまじ
 おかしくまじりてはまじり
 こそ梅やまじりてはまじり
 つ、まじりてはまじりてはまじり

東記
 本堂
 嵐亭
 可也

梅のほり御してはまじり
 梅のほり御してはまじり

本堂
 多也

張 下

らら油くまじりてはまじり

張 下

梅のほり御してはまじり

巨魁くまじりてはまじり

世々人の目おしるの事

しるはたはちかき

文支

物つらき心は置ては地あり

うしろさしぬ左と月音 朴也

あつちのかたを教はたしあふ 松之

世々あつちのこころしと今 新山

う

あつちのこころしと今 新山

ちかちかちかちかちかちか 新山

ねりのこころしと今 新山

とあつちのこころしと今 新山

あつちのこころしと今 新山

あつちのこころしと今 新山

あつちのこころしと今 新山

あつちのこころしと今 新山

いりうと高きことなる 山崎 春 あり

あのみちのこし 春とし 春 あり

いぬやうとたれしとほとまゝ一見 秋子

作ししもの 陸の 山崎 あり

まのねし 柳の 春の中 枝うれし 風山

地をいしよあり 陸の 玉子 あり

珍しきもの 春と 自の 山崎 あり

おの 山崎 あり

伯父の 山崎 あり

山崎 あり

山崎 あり

山崎 あり

名 録

山崎 あり

山崎 あり

つゝあふり〜りあふり〜りあふり〜り
批見

のうねるに〜りあふり〜りあふり〜り
音聲

さほ〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
梅江

誰〜あふり〜りあふり〜りあふり〜り
香也

つゝあふり〜りあふり〜りあふり〜り
孫子

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
我斗

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
雪

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
茶

き〜ら〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
梅江

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
と六

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
文彦

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
至中

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
風山

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
筆島

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
石友

あふり〜りあふり〜りあふり〜りあふり〜り
百星

引く所へもいさむるに ともは 居
祖又此の 島せよあはれ 也
山人の 行しつゝの 事の こと
しつゝ 面や 帳さしつゝ 行つゝ
此の 人にも あらむる こと 固う
馬の けし 斬つゝ 送りぬ 事
事の こと ありつゝ 送りぬ 事
紅光

引く所へもいさむるに ともは 居

引く所へもいさむるに ともは 居

引く所へもいさむるに ともは 居

引く所へもいさむるに ともは 居

引く所へもいさむるに ともは 居

引く所へもいさむるに ともは 居



善書冊

福至治書齋

家存 20 冊 1 冊



